

ホルスタイン種経産牛におけるプロジェステロン単味膈  
内徐放剤 20 日間処置による卵巢, 血中プロジェステロン  
とエストラジオール濃度及び発情徴候の変化  
並びに排卵同期化

齊藤咲弥香<sup>1)</sup> 永井清亮<sup>1,2)</sup> 黒岩武信<sup>3)</sup> 遠藤なつ美<sup>1,2)</sup>  
田中知己<sup>1,2)</sup> 加茂前秀夫<sup>1,2)†</sup>



本文はこちら

- 1) 東京農工大学農学部 (〒 183-8509 府中市幸町 3-5-8)
- 2) 岐阜大学大学院連合獣医学研究科 (〒 501-1193 岐阜市柳戸 1-1)
- 3) 兵庫県農業共済組合 (〒 650-0011 神戸市中央区下山手通 4-15-3)

(2021 年 9 月 2 日受付・2022 年 6 月 17 日受理・2022 年 8 月 18 日公開)

要 約

牛の発情・排卵同期化に複数のホルモン剤を用いる方法は経費と労力を要する。プロジェステロン (P<sub>4</sub>) 1.55g を含有する P<sub>4</sub> 単味膈内徐放剤 (PRID-E) をホルスタイン種経産乳牛 3 頭に排卵後 2 日 (D2 群: 排卵日を 0 日), 別の 3 頭に排卵後 15 日 (D15 群) からそれぞれ 20 日間処置し, 発情・排卵の同期化について検討した。その結果, 排卵が両群の全頭において抜去後 3~4 日に起こった。卵胞発育波数は D2 群が 2~3 波, D15 群が 3~4 波であった。排卵卵胞の優位日数は両群各 2 頭では 7 日, 残る両群各 1 頭では 13~14 日, 最大直径は 5 頭では 14.1~17.9mm, 残る D2 群の 1 頭では 20.5mm であった。発情徴候は全頭において抜去翌日に最も明瞭となった。排卵後 2 日及び 15 日から PRID-E の 20 日間処置を行うと当該徐放剤抜去後 3~4 日に排卵を同期化できることが明らかになった。

——キーワード: 血中卵巢ステロイドホルモン, 卵巢の変化, ホルスタイン種経産乳牛, 排卵同期化, プロジェステロン単味膈内徐放剤。

-----日獣会誌 75, e165~e173 (2022)